

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200320
法人名	株式会社 ヴィラージュ
事業所名	グループホーム 上白井の家
所在地	群馬県渋川市上白井2578-11 (電話) 0279-20-2089

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19年12月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての,	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 月2,800円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円

(4) 利用者の概要(12月 日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	82歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	こすもすクリニック・ほたか病院・船岡歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いに位置するグループホームで、多数の介護関連施設を有する法人を母体に持ち、周りには介護福祉の学校や農協施設が隣接している。法人内の病院や学校との連携をとり、専門的なケアサービスが提供されている。昨年の4月にホームの隣に小規模多機能型共同生活介護施設を併設し、管理者は兼務であるため、運営推進会議、納涼祭、敬老会等を合同で開催している。また法人内には複数のグループホームがあり、合同でクリスマス会等を行い、日常的に交流を行っている。ホームは静かな環境に囲まれ、清潔で穏やかな雰囲気が感じられる、災害時の対策も徹底され、職員全員に共有されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で「できている」項目がほとんどで、「できていない」項目は少なかったためか改善課題をお聞きしても認識がなく、明確に答えていただけなかった。従って取り組みもされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義を全職員が理解しており、自己評価は職員全員で取り組まれた。自己評価項目を小分けにして、出勤している職員で話し合いを行い、管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームから外部評価の結果や利用者数等の現状報告やイベント報告がされ、市や地元の役員よりイベントに参加した感想や地元の情報をいただいている。家族より夕食の時間帯を少し遅くしてほしい、入浴の時間を夜間にしてほしい等の希望が出されており、ホームは実現に向けて検討している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話連絡時に、家族の意見、苦情、不安等をお聞きするようにし、出された意見は記録し、ケアカンファレンス等で検討し運営に反映している。苦情相談窓口は、書類に明記し、家族にわかりやすく説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周囲にある民家は数が少ないが、昨年ホームは自治会に入会し、地域の行事に出来るだけ参加している。地域の草刈りや、鎌を持ってのハードな仕事なので職員が参加し、利用者は村の祭りの参加やゲートボールの見学をして、交流している。農道を散歩の際には農家の人が声をかけてくれたり、地元中学生の福祉体験学習の受け入れたり、隣接する介護福祉専門学校の若者との交流も行われている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で、「笑顔を忘れずに、家庭的な環境のもとで自分らしい生活を送れるように支援する。安らぎを感じられる環境作りに努める」の理念を作り上げている。	○	一般の方にも大変分かりやすく作られている理念ではあるが、地域密着型サービスとしての理念を話し合われるよう期待したい。また、更にパンフレットなどにも記載されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事務室と玄関の目の届く所2箇所に掲示され、朝礼時に理念を唱和している。日々の唱和のなかで個々に学んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年の夏に自治会に加入し、自治会役員や班長さんが立寄ってくれたり、回覧板で地域の情報を把握したりしている。地域の清掃活動には、鎌での草刈りで危険なため、職員が参加し、ゲートボールの見学等に利用者が参加して、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を全職員が理解しており、今回の評価は職員全員で取り組んでいる。自己評価項目を小分けにして、出勤している職員で話し合いを続けながら、管理者がまとめている。外部評価の意義は理解されているが、前回の改善点が把握されていない。	○	前回の外部評価の結果は「できている」項目がほとんどで「できていない」項目は2項目だったためか、改善項目をお聞きしても改善課題としての認識が弱く、明確に答えていただけなかった。今後は改善計画等を作成され、計画に沿って取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型共同生活介護施設と合同の運営推進会議を、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームから外部評価の結果や利用者数等の現状報告やイベント報告がされ、市や地元の役員よりイベントに参加した感想や地元の情報をいただいている。会議内容は、掲示板に掲示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	1ヶ月に1回訪問し、顔なじみの職員と、ホームの現状報告などを話している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員は、面会時に家族に入居者の現況報告し、状態に変化があれば、その都度電話で報告をしている。ホーム便りは、年に1回発行している。	○	ホーム便りは年1回の発行である。日常の生活ぶりや、イベントや外出での様子、職員の異動などについて、家族への定期的な報告を期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の面会時や電話連絡時に意見や苦情を聞きだすように努め、出された意見は小さな事でも記録し、ケアカンファレンス等で検討し、運営に反映している。	○	複数の苦情相談窓口(市役所、国保連合会)の電話番号を、重要事項説明書等に明記していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同系列施設の異動が多く、異動があると玄関に名前と写真の札を下げたり、当日の勤務者を表示したりしているが、改めて家族への連絡や紹介はしていない。	○	馴染みの関係を重視し、職員の異動を抑える努力をしていただきたい。また、入居者へのダメージを最小限に止め、家族との関係を良好に保つために速やかに対応し努力されることを期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人が病院や多数の施設を運営しているので、法人内研修の機会が多く、職員は年に2回以上の研修や講習を受けている。外部研修は報告書の提出が必要で、ケアカンファレンスや朝礼時に報告を行い、職員全体のレベルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には他にグループホームが2カ所あり、納涼祭やクリスマス会等を合同でするなど日常的に行き来している。ホーム長会議は月に1回開催し、情報交換をしサービスの質を向上させる取り組みをしている。県内のグループホーム連絡協議会に加入しているが、過去1年間では他の事業所との交換研修はなかった。	○	他のグループホームの見学や交換研修等の取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に本人、家族に施設を見学してもらって、お茶を飲んでもらいながらホームの雰囲気に馴染めるように配慮している。廊下で繋がっている小規模多機能型施設は昨年4月に開設された。週末はショートで他の日はデイサービスを利用している方がグループホームの予約となったので、馴染みながらのサービス利用が開始される予定である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に過ごす時間が多いので、関係が密接である。入居者と一緒に落葉で堆肥作りや草むしり、鉢植えの大輪の菊作り、干し柿作り等しながら、昔の生活の話など話題も豊富で、学ぶことが多く精神的に支えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりの生活暦や取り巻く環境情報を把握している。日々の生活の中ではバイタルチェックを1日に2回行っており、その時に思いや意向を伺っている。介護度が高い人が多いので、ケアカンファレンス等で報告し、本人本位に検討し、同じような対応ができるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の計画については、家族から承諾書を頂いているが、3ヶ月に1回の見直しで立てられた計画については、家族からの同意の印鑑は頂いていない。計画も画一的になっているため問題点やケアの具体策が見えてこない。	○	1人ひとりの課題について職員全員が意見を出し合い、長期目標や短期目標を明確にし、入居者本人の暮らしを反映した介護計画の作成に努められたい。また見直しで作成された計画は、家族に提示し、承認印を頂くように努力されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントを行い、ケアプランを作成し、家族等に同意を得ている。モニタリングをし、1ヶ月に1回は支援経過を記録している。状態変化が生じた時には家族に連絡をし、現状に即した新たな計画を作成し、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容室やかかりつけ医、歯科や耳鼻科受診時の送迎、付き添い、衣類等買物の個別支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員のかかりつけ医は、近くのクリニックとなっている。2週間に1回、職員が通院を支援している。ペースメーカー等の特別な疾患については、専門病院の受診をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までは重度化や終末期は、母体の病院での入院対応としているが、今後は家族の希望があれば、看護職を中心に職員全員で、重度化や終末期に向けた対応を勉強し、共有していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の名前が入っている資料などは、事務所内の鍵のついた戸棚に保管している。入居者の個人情報を外部に出さないことについては契約書に明記し、家族に説明をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の本人が望む過ごし方を支援しているので、レクリエーション等も強制していない。本人のペースに沿って無理強いせずに、日々の生活の中で役割を担っていただく等自立支援を考えながら生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に好みのものを聞いたり、準備できる範囲で、個人の好みに合わせた食事やおやつを提供している。職員は入居者と一緒に食事をし、見守りや介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに男性日、女性日と決め15時30分～夕食までの時間に1人1人ゆっくり入浴していただいている。希望で日を変えることもできる。入浴を拒否する人に入浴剤を使用し「温泉ですよ」と誘うと入浴される場合がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、洗濯物やエプロン干し、おしぼりたたみ、廊下や居室のモップかけ、植え木の水やりなど無理のない範囲で役割を担っていただいている。カルタ、貼り絵など本人が希望されるレクリエーションや散歩など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、ドライブ、農道の散歩、近くの温泉の足湯などに出かける支援をしている。また、これまでの生活の継続として、備品や食材の買物等に入居者と行き、買い物の品の袋詰め等を一緒に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入り口は玄関一箇所のみで、他に非常口はなく、従って玄関が非常口の役割も担っている。ドアは施錠されており、必要時に開閉されている。また、居室にもL字の鍵が設置されている。	○	徘徊が頻繁であったり、他の入居者の居室に出入りしてしまうために、施錠し、家族からは「身体拘束同意書」をとられているが、認知症介護の原点に戻り、鍵をかけることへの弊害を考え、見守りを徹底し安全面に配慮して鍵をかけない工夫に取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員と年2回の訓練を行っている。近隣の人の協力はあるが、ホームの周囲には民家が少なく訓練には加わっていない。消防用設備・救出用具の設備、更に食材の備蓄がされている。緊急連絡網が整備され、すべての職員が避難場所を周知されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、チェックしている。水分補給は、10時15時としており、医師の指示がある場合のみ水分補給量をチェックしている。献立は、早番が栄養バランスを考えながら明日の献立を作っている。現在は、栄養士のアドバイスを受ける機会がない。	○	カロリーの過不足や栄養の偏りがないう、栄養士等の専門的な観点からアドバイスを受ける機会をつくるよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームはバリアフリーとなっており、手すりを全面的につけ自立して過ごせる共用空間づくりがされている。手すりなどの共用部分は、毎日消毒薬を使用した布で拭く等清潔に保たれている。入居者は、食堂兼居間にいることが多く、広い和室にはこたつが置かれ居心地よく過ごせる場所作りがされている。1月訪問時には、正月の飾り物が多く、季節感が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に備えつけの大きな戸棚があるため、概ね必要なものは収まっている。仏壇やタンス・ちゃぶ台など馴染みの家具を持ち込まれている居室がある一方、施錠されている居室は寝具以外何もない。	○	居室の見学時、入居者の居室に外部より施錠していた。居室には鍵をかけないような工夫を期待する。